

事業報告

講座名	平成30年度第1回希少野生動植物種保護支援員研修会		
日時	平成30年10月28日(日) 10:00~15:00		
場所	・岩国市錦ふるさとセンター ・オオサンショウウオ保護施設	参加者数	支援員31人

「オオサンショウウオの保護活動」をテーマに支援員研修会を開催しました。

1 日程

時間	内容	講師
9:45 ~ 10:00	受付 (錦ふるさとセンター)	
10:00 ~ 10:05	開会	
10:05 ~ 11:30	講演①「里山の宝もの・オオサンショウウオ」	日本オオサンショウウオの会 桑原一司 会長
11:30 ~ 12:00	講演②「錦川のオオサンショウウオの保護活動について」	錦川流域ネット交流会 白井啓二 代表世話人
12:00 ~ 12:30	講義「支援員の役割等について」	山口県自然保護課職員
12:30 ~ 13:45	昼食・保護施設へ移動	
13:45 ~ 14:45	オオサンショウウオ保護施設見学	保護施設職員
14:45 ~ 15:00	閉会 (アンケート記入)	

2 講演・講義

(1) 講演① 「里山の宝もの・オオサンショウウオ」

- ・広島市安佐動物公園で、副園長を勤められた桑原博士(講師)が、フィールドでの長年の調査・研究において、オオサンショウウオは、「ヌシ」とよばれる特別大きな雄が、産卵用巣穴を守って子育てしていることを解明し、動物公園内で、世界初のオオサンショウウオの人工繁殖に成功したこと
- ・この経験をもとに、広島県北広島町で、地域住民とともに、オオサンショウウオの人工巣穴を河川に設置して繁殖させる取組を進めていること
- ・西日本各地で取り組まれているオオサンショウウオの保護活動を紹介し、これらの取組が地域を活性化していることなどについての講演内容であった

(2) 講演② 「錦川のオオサンショウウオの保護活動」

- ・「錦川観光協会」や「錦川流域ネット交流会」など、多方面で地域活動に取り組んでいる白井講師たちのオオサンショウウオの保護活動について説明があった
- ・オオサンショウウオは、昔から、宇佐川で確認されていたが、特別天然記念物のため、触ることもできず関心がなかったが、2011年に「錦川オオサンショウウオの会」を発足後、地元で開催された大会で、やせ細ったオオサンショウウオが発見され、緊急保護が始まったこと
- ・錦川上流にいるオオサンショウウオが下流で発見されるようになったのは、大雨の後に、上流にもどれないためと考えられ、保護施設で回復した個体を上流に放流し

ていること

- ・オオサンショウウオの保護活動を、今後、錦川淡水水族館構想に繋げたいことなどについての講演内容であった

(3) 講義 「支援員の役割」について

- ・自然保護課職員により、支援員制度のしくみや支援員の役割、山口県レッドリストなどについて解説があった

3 施設見学

- ・宇佐川オオサンショウウオ保護施設において、オオサンショウウオの生態・飼育状況などについての説明や、錦川に生息する魚類・両生類等を見学した。
- ・オオサンショウウオは、水音に反応して、かみつき丸呑みする。細かな歯を持っているので、餌やりの際は注意が必要。餌は主にイワシ
- ・個体識別のため、マイクロチップを打っている（犬猫とことなり、筋肉下に注射で埋め込むため、打つ際は、暴れるため保定が大変
- ・ふ化後、4センチ程度の大きさを産卵用巣穴を出した後、5年間で20センチ程度の大きさなり、その後年1センチ程度大きくなる。施設には120センチの大きさの個体があり、100年近く生き続けていることになる